

「球春真っ盛り」

暦の上では、春は5月5日の立夏までということですが、実感としては、4月から5月にかけてのこの時期がまさに春本番だと思われる人が多いのではないのでしょうか。花見の季節も終わり、新緑がまぶしい良い季節を迎えました。そして、春の陽気とともに、本格的なスポーツシーズンも到来です。

「球春」という言葉があります。丁度、プロ野球や春の高校野球が始まる3月ごろから新聞のスポーツ面の見出しに「球春到来」という言葉がよく出てきます。現代になって野球のシーズン開幕を喜ぶ気持ちを込めて作られた造語のようですが、今では俳句の季語としても認められているようです。

球技といえば、本市を本拠地とする四国・九州アイランドリーグの香川オリブガイナース、四国サッカーリーグのカマタマーレ讃岐の両チームも、新たなシーズンの幕開けとともに、初戦を勝利で飾るなど、好スタートを切り、これから応援にも熱が入るところです。激しいリーグ戦を戦い抜き、ウェスタン・カンファレンス（西地区）で2位となったbjリーグの高松ファイブアローズも併せて、まさに本市でも「ボールの春，球春真っ盛り」という感じです。これにVチャレンジリーグに所属する四国エイティエイツクイーンを加えて、野球，サッカー，バスケットボール，バレーボールという全国的にも人気のある主要な球技四種目で、本市にはそれぞれトップ・チームが拠点を置いています。また、本市を中心に活動しているサーパス香川アイスホッケークラブもあり、これらのチームの存在は、素直にありがたいことだと思っています。

スポーツは、いろいろな楽しみ方ができます。自ら実践することはもちろんですが、会場やテレビでスポーツの試合を見て応援することでも、喜怒哀楽入り混じって充実感が得られます。そして、少し大げさですが、スポーツには、自分が生きている証を実感させてくれるような力があるように思います。もちろん、自分自身や^{ひいき}贖のチームが勝負に負けたりすると、抑えようのない怒りや悔しさをどこかにぶつけたくもなるのですが、それもまた、生の実感というものでしょう。

スポーツの語源は「港（ポート）を出ること」だと聞いたことがあります。母港（日常）を離れ、気晴らしや遊びをすることにより自分を取り戻すためにする行為だということです。

多くの市民のみなさまが時には港を離れて、楽しみや生きがいを持って生活していけるよう、本市に拠点を置くこれらのトップチームの活躍を応援しながら、市民の生涯スポーツ，学生スポーツ，学童スポーツなど、すそ野の広いスポーツの振興を様々な施策を通じて図ってまいりたいと思っています。